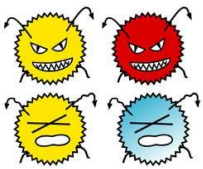




放射能のついで 震災がれきの受け入れに 反対しています

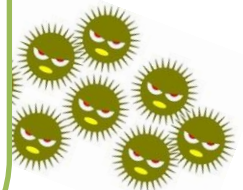
今、東日本大震災の瓦礫を大阪府で受入れて焼却することが検討されています。
「被災地だけに押し付けてはいけない。」「日本人みんなで痛みを分かちあおう。」
という皆様のあたたかい気持ち、よくわかります。
でも、震災がれきは政府・報道の言うように「安全」なものではありません。
子どもたちを絶対に被ばくさせたくありません！子どもたちを放射能から守りま
しょう！！



① 東北の瓦礫は現実には放射能に汚染されています！

昨年環境省のデータでは、宮城県・岩手県の一般廃棄物焼却施設における焼却灰から、仙台市で2,581ベクレル/kg、一関市で30,000ベクレル/kgなど高濃度の放射性セシウム濃度が検出されています。

←震災前は、100ベクレル/kg以上の放射性廃棄物は危険なので、原発などの施設から持ち出しは出来ませんでした。施設の中で厳重に保管・処分されたのです。



最終処分場（埋立処分場）の浸出水処理装置は放射性物質を除去できないので、汚染された排水が海や川にそのまま流されます。実際に柏市の最終処分場（同市布施）で、浸出水と放流水から放射性セシウムが検出され、放流を停止し施設内で保管されています。

② 今の放射能の測定方法がいい加減です！

今、瓦礫の周りの空間線量を測って、安全だと言われていますが、問題は、どのくらい放射性物質が瓦礫にしみこんでいるかなのです。
焼却灰からは現実には放射性セシウムが出ています(①)





③ バグフィルターでは放射性セシウムをとれません！

ダイオキシンを取るためのバグフィルターがセシウムも 99.9%取ることができるといふ環境省の説明が、**実証データのないウソ**だったということが東京新聞にスクープされました。**ナノレベルの放射性セシウム**は、バグフィルターを通り抜けてしまうのです



瓦礫にはヒ素やアスベスト、PCB 等の有害物質が含まれていることも明らかになっています。

阪神大震災時に発生したガレキの焼却後、大気中のアスベストの

濃度が **50 倍**になったという報告があります



④ 瓦礫を受入れ・焼却している東京では風下で空間線量があがっています！

東京では焼却炉の風下の空間の放射線量が瓦礫焼却後 3 倍にあがったという報告があります。報道されていませんが、子どもの甲状腺異常など現実に被害も出ています。

大阪で瓦礫をもやせば、**風下の和歌山**でも**確実に放射能に汚染**されています。

⑤ 広域処理をしなければ被災地が困るという報道は一方的です！

広域処理の瓦礫の量は、震災瓦礫の**全体の 2 割**にすぎません。被災地で安全に処理できる施設を作れば、現地で雇用も生まれます。被災者が一番困っているのは「仕事がない」ことなのです。



⑥ 瓦礫ではなく、避難者を受入れてください！

瓦礫を広域処理すると、受け入れ自治体に交付金が下り、産廃業者・運搬業者がもうかります。でも、放射能に汚染された地域からの避難者を受入れればお金がかかります。だから避難者受入れより瓦礫受入れが進められようとしています。 **「お金より命」を大事にしてください！**



制作：放射能から命を守りたい集い in 和歌山

新田育子(福島からの自主避難者)

湯浅友美

savealivingthing@gmail.com

